

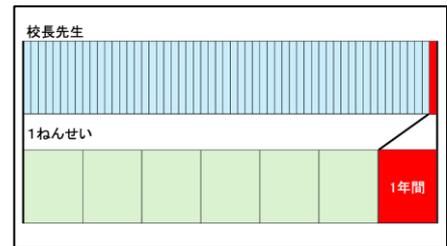


## あけましておめでとうございます

始業式の日朝、子どもたちはとてもいい表情で登校して来ました。口々に「あけましておめでとうございます」とあいさつをしてくれます。新しい1年が始まった希望をしっかりと持って学校にやって来てくれたことが伝わりました。子どもたちは、私たち大人が考えるよりもずっと純粋な気持ちで「今年がんばるぞ」と新年を迎えているのだと実感しました。



右の図は12月の全校朝会で子どもたちに示したスライドです。例えば、7歳の1年生の1年間には、56歳の私の8年分の伸び幅があるはずなのです。ひらがなもカタカナも覚え、足し算も引き算もできるようになった1年生の成長ぶりを考えれば納得できます。今年も「のびしろしかない」子どもたちが、すくすくと育つ1年になりますように。

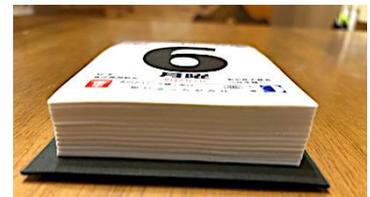


保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。令和7年も、教職員一同、180名の広谷っ子たちの健やかな成長をめざして全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 令和7年 巳年を迎えて

始業式では、子どもたちに以下のような話をしました。

- へびは古来よりとても縁起の良いものとして神聖化されていた生き物です。へびは脱皮を繰り返しながら成長していきます。古い皮を剥ぎながら、そのたびに大きく、そして新たに生きていく生き物なのです。そんなへびは「再生」と「成長」のシンボルだと言われています。私たちも、これまでの失敗や間違いにとらわれすぎず、新たに生きていく1年にしたいですね。「去年は忘れ物をたくさんしちゃったけど・・・」「去年はあまり発表できなかったけど・・・」。そんな去年までの自分を乗り越えて、新しい自分を作っていくチャンスなのです。
- 我が家の日めくりカレンダーです。かなり分厚いですね。この日めくりカレンダーの厚みを測ってみると2cmありました。1年は365日なので、この日めくりカレンダー1日分の厚みは、0.05mmくらいになります。1枚は、透かせば裏面の文字が見えるくらい薄いものです。けれども、1日1枚カレンダーをめくって、365日分重なると、こんなに分厚くなります。
- 1日1日の小さいがんばり。それは成長したと感じられるようなものではないのかもしれませんが。けれどもそれが重なっていくことで厚みを増し、がんばってきたことが見えるようになり、こんなにがっしりとした力になる。これがみんなが成長したり、かしこくなったりしていく仕組みなのだと思います。
- 今日、自分の目標に向けて1つがんばること。それがやがて目に見える自分の力となっていきます。今日の「1」は、1年くりかえせば「365」の力になります。ところが今日何も



しなかったとしたら「0」は365回たしても「0」のままです。大事なものは、たとえ「1」であっても、今日の「1」を積み重ねていくことです。続けていくことです。

- 年が明けて「お芽」出たい。出たがってうずうずしているみんなの中の小さな芽を思い切り伸ばして、小さな積み重ねを目に見える力にしていける、そんな1年にしていましょ

## 冬のそうあん賞

冬休みには「そうあんくんの日大作戦」へのご協力、ありがとうございました。年末年始の忙しい時期に、子どもたちも家族の一員として積極的に手伝いに取り組むなどして、深まった家族の絆もあったのではないかと想像します。1・2年生については、毎日そうあんくんの日を取組ができた子に、3～6年生については100ポイントを達成した子に「冬のそうあん賞」を渡します。

ご家庭での取組に感謝申し上げるとともに、引き続き「そうあんくんの日」へのご協力をお願いします。



### ■ 大庄屋記念館見学【3年生】 12月20日

3年生は昔の暮らしについて学習するために大庄屋記念館に出かけました。「大庄屋記念館」は150年ほど前に建てられた小城集落にある屋敷で、広谷校区が誇る貴重な文化財です。なぜ、玄関はこんな引き戸になっているのか。なぜ土間があるのか。この大庄屋記念館には「快適に暮らすための工夫」がたくさんあったことを歴史文化財課の皆さんが丁寧に教えてくださいました。昔の人々の知恵とくふうを知り、今の自分たちの暮らしとのつながりに気づいた社会見学でした。



いろいろある居間は誰がどこに座るか決まっていたんだよ

いただいた年賀状をめくっていくと、差出人を見なくても、誰からの年賀状なのか、当てられるものが何枚かあります。味わいのある文字です。何年も言葉を交わしていなくても、その文字を見るだけで、誰なのかがわかります。「うわー、なつかしい字や！」という感慨に浸ったりします。

担任の教員なら、子どもたちのノートは、たいがい誰のノートか当てられると思います。この事実が意味していること。それは今、子どもたちが何気なく書いている文字が、いつか、その子自身を映し出すものにもなるということです。毎日漢字練習をする中で、子どもたちは自分の“味”をつくっているということでしょう。「ていねいに書くこと」にはそんな意味もあります。

ていねいさはねばり強さとセットで機能するものです。1年のはじめだからこそ、何事にもていねいさを意識して取り組ませたいものです。

- \* 4年生は12月に続いて風信書道会の細川太翠さんほそかわたいすいに来ていただき、2回目の書写の指導を受けました。(1月9日)



### 校長室より「広谷っ子ブログ」発信中！

【広谷っ子ブログ】<https://hirotanikocho.blog.fc2.com/>

